

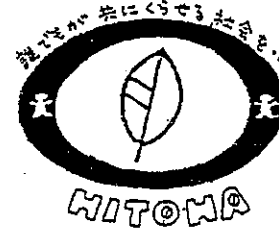
2014年(H26年)

5月

No. 274

ひとはつうしん

(ホームページアドレス) <http://hitoha-fukushi.com>
(メールアドレス) hitoha@lime.ocn.ne.jp



社会福祉法人 ひとは福社会

〒739-1203

広島県安芸高田市向原町長田1857番地

TEL (0826) 46-2960 FAX (0826) 46-7230

平成25年度 ひとは福社会後援会会計報告

(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(単位:円)

収入の部		支出の部	
会費 474名(法人含む)	1,945,400	ひとは福社会へ寄付	1,300,000
冊子収入	32,000	役員費(切手代、手数料)	577,235
利子	98	事業部工賃(いきがい)	35,000
前期繰越金	142,199	事業部工賃(ひとは福)	35,000
		事業部工賃(あつぷ)	35,000
		印刷代他	37,836
		小計	2,020,071
		当期繰越金	99,626
合計	2,119,697	合計	2,119,697

担当:竹内

25年以上、後援会の方々の力を借りて、つうしんを発行できていることは、ひとはの自慢のひとつです。
ほんとうにありがとうございます。 寺尾 順子

行事予定 5月

13(火) アロマイル 香水教室(さつき亭) 参加費 1,000円

28(水) トールイベント教室(さつき亭) 参加費 500円

「梅雨にちなみだまをつくろう」

31(土) 秋山登志夫ライブ

会場:作業所 いきがいフロア

18:30 開場

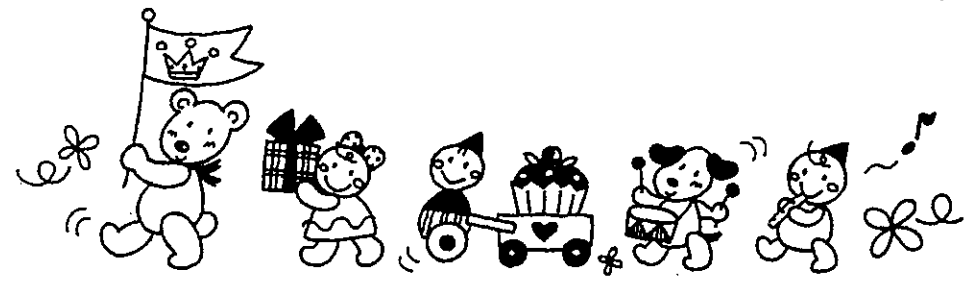
料金:大人1,500円 中学生700円

(小学生以下は無料)

先月、足掛け7年にも及ぶ裁判(ある施設で施設長による虐待)が最高裁で棄却され判決が決定されたのを受けて、支える会の解散を含めて総括集会が行われました。

被害を受けたHさんの御両親が、施設長の加害行為と行政の責任を問い、Hさんの無念を晴らすために起こした裁判です。この裁判を支えたのは、自身自身の問題として受け止めてきた方々によって組織された支える会の力だと思います。この支える会には、ひとは会(家族の会)からも多くの方々に参加していただきました。この事件のみならず、ひとは会の方々は、いろんな悩みを抱えている仲間の事を、いつも自分のことのように悩み、何とかしようとして取り組んできました。それはひとはが決して以来の伝統かも知れません。我が子も大切だが、それよりももっとつらい思いをしている人への思いやりを大切に

しながらひとは会はひとはを支えてきました。
支える会を解散するに当たり、改めてひとは会のありがたさを感じています。
(理事長 寺尾 文尚)



きらら旅行で司馬さんと共にスペースワールドへ行く。

2日目のお昼は下関の唐戸市場。到着する前から司馬さんは「ネギトロ」と言

いた。みんなで昼食のぶぐ料理を食べ、自由行動力になる。「ネギトロ」と言

ながら市場を歩く。目の前に大盛り「ネギトロ」が売られている。しかも格安。

「司馬さん、あったぞ」と意気揚々と店に近づくが、司馬さんは素通り。そのまま

2階へ。「司馬さん、市場の2階には店はないぞ。」と言いつつ歩き回

っていると、なんと「回転ずし」発見！司馬さんの顔が何かを思い出したかの様に

輝く。店に入ると満席。「満席じゃけん待とう」と伝えるが、店の奥のボックス

席に座ろうとする。「満席じゃけん、座れんのんじや。」と伝えながら押し問答して

ると、カウンター席の一人席だけ優先して空けてくださる。美味しそうに回転

ずしを食べる司馬さん。帰ってからお母さんに聞くと、なんと司馬さんは以前、家

族でここに来て、ボックス席に座り、美味しい寿司を家族と食べたんだぞう。

そんな楽しい思い出の話。また唐戸市場に行ける事を知った司馬さんは、その「回転

ずし」を探し当てたのだ。なんと司馬さんと家族との楽しい思い出に少し触れた出来

事であった。(あっ、細野 智昭)

ひとのはの

人とあまりコミュニケーションをとらず、ほとんど一人で過ごしているFさん。昼食も、

にぎやかな都屋の中で、より静かな環境を好むようです。

そんなある日、Fさんと私の二人で昼食をとった時のことです。Fさんは、

なんと自分と私の分まで配膳をしてくれたのです。きちんと箸を揃え、ユップ

にお茶までいれてくれたのです。

私は最初、これを見た時、本当にびっくりしました。普段の様子からはな

な気が付いてあげられなかったものを発見した気持ちになりました。

これからもきららの新発見ができるような人でありたいなあと思った

出来事でした。(あっ、二宮由香里)

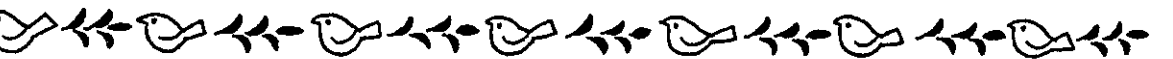
作業所 より

333

年度が改まって、これまで1つの事業部として活動を続けていた「いきがい」は、「あかまんま」と合わせた上で4つの活動

振り返ればバタバタしていたスタッフ(というより、私だけか...(^_^))も、各班ごとに所属するようになって、落ち着いてきららの活動を支援できるようになり、少しずつですが自信を持って支援にあたってくれています。また最初は戸惑いを見せていたきらら達もだんだん慣れてきて、楽しく活動に参加してくれているように思います。

前年度の「いきがい」は、お世辞にもしっかり支援できたと言えないのですが、今年度は若いスタッフを中心に、前年度にやり残した課題に取組んでくれる事と楽しみです。皆さんの応援をよろしくお願い致します。(作業所 原田圭介)



まだ寒さの残る3月のある日...

爽直で優しいような男性と、穏やかな笑顔が印象的な女性が来店されま

した。今になって思うと男性の表情ほどことなく緊張されているように

感じました。

ゆったりとしたささき亭の空間に、ゆったりとした雰囲気のある二人... 声を

かけてみると、女性は小さな島で学校の先生をされており、男性は北九

州在住であることが分かりました。

会話が弾むにつれ、今日は女性の奥家に初めてあいさつに行かれる

とか... このとき、ようやく男性の緊張の理由が分かりました。

しばらくくつろがれてから、さあ出発というところで、ようやく二人そろっての

笑顔を見る事ができました。

家族となり、家族が増え、ささき亭に来店されることを楽しみに

待っています。こういった出会い、楽しみもささき亭ならではの喜びです。

